

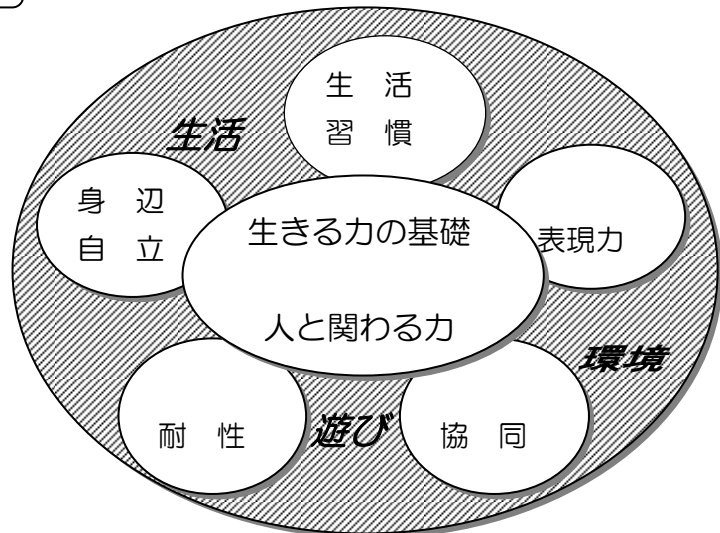
幼保小の連携を円滑にするために

名古屋市子ども青少年局子育て家庭部主幹 太田早津美

1 幼児教育で大切にしたいこと

○生活や遊び、環境を通して育てる

- 生きる力の基礎を育てる
- 「人と関わる力」を育てる



幼児期に大切にしたいことは何か、
現場の小学校との連携で入学当初どんなことに困っているか、
あるいは入学前に身につけて欲しいと思っていることは何かに着目してみた。

2 名古屋市の取り組み

○名古屋市幼児教育研究協議会

- 市内の国公立幼稚園 私立幼稚園 公立保育所 民間保育所 の4団体が加入

22年度加入園
(467園)

国公立幼稚園	25園	公立保育所	122園
私立幼稚園	157園	民間保育所	163園

- 幼稚園、保育所の相互の協調により、幼児教育の振興及び向上を図ることを目的としている。
- 市内16区に組織部・安全部・研修部・広報部の委員を置き、各部の活動とともに、幼保小連絡懇談会を年1回～2回開催している

【幼保小連絡懇談会】

- 6～7月と1～2月に小学校ブロックまたは中学校ブロックで実施し、小学校での子どもの様子や入学する子どもの状況の情報交換の場になっている
- 区によっては、会議の内容が形式的になっていることもあるが、それぞれの交流の場として4団体が一同に会し、小学校との懇談ができることは評価できる

(内容)

	学校側からの発言	幼稚園、保育所からの発言
6 ～ 7 月の 頃の 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・45分座ってられない ・落ち着いて話を聞けない ・給食時間が40分なので食べ終わらない子がいる ・和式便器に慣れない、衣服の着脱ができない等で困る子がいる ・自信がない ・自分の思いが表現できない ・コミュニケーションが苦手 ・理解力に差がある ・チャイムで行動するのは難しい ・受身、指示待ち ・ルールが守れない ・個別の対応を心がける。 ・雑巾、箸の使い方が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校への不安がある ・考える力が弱くなっている ・幼稚園はお弁当だったので、給食が食べられないのではと心配 ・気持ちの切り替えが難しい子がいる ・ボーダーの子が増えた。 ・鉛筆が上手く持てない <p>(1年生の親の不安)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勉強のスピードが速く、ついていけるかどうか心配 ・朝、学校に行きたがらず、親のそばを離れない
1 ～ 2 月の 頃の 懇談会	<ul style="list-style-type: none"> ・入学する子どものこれまでの育の状況や生育歴が知りたい(個人情報なので会議後に個別に懇談) ・特別支援、友達関係、アレルギー、 ・保護者の状況が知りたい (育児能力、虐待、育児不安、メンタル、クレーム) ・保護者同士のトラブルはないか (クラス編成の参考にしたい) 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育要録では個人情報のこともあり詳細まで書けない ・園での生活や各園の教育や保育で大切にしてきた内容 ・人見知り、こだわり、アレルギーの有無、親子関係、虐待(個人情報は個別に懇談)

(平成 21 年度幼保小懇談会まとめより抜粋)

○学校から新1年生に望むこと

- 学校からは文字が書けたり読めたりする、数の理解ができるかどうかより、先生の話が座って聴けるという事がポイントとなる。子どもたちに聞く態度が育っていないと授業が進まない
- 特に
 - ①生活習慣はしっかり身につけて欲しい
 - ②自分の気持ちを伝えたり相手の話をよく聞くなど、相手の気持ちが分かる友達関係を作れるようにする

3 特別に支援や配慮の必要な子どもについて

○名古屋市の保育所における障害児保育

●名古屋市の保育所では制度として公私の全園を対象に、統合保育の理念の下に障害児保育を開始して 30 年になる。障害のある子もいない子も、様々な子どもが互いの触れ合いの中で育っていくことは、お互いにとても有益なことであるという視点で保育をしてきた。ノーマライゼーションの思想に基づく統合保育を行ってきた

<保育所>

- 発達の遅れや障害のある子など保育困難な子どもは、名古屋市の保育園では保育士の加配などで障害の程度や、保育困難度、人数に応じて対応する職員が配置されている。
- 当然、保護者は入学に際して普通学級に入れたいという思いが強く、小学校に申し入れするケースが多い。

<小学校>

- 多動な児童については、教員、支援教員の状況によっては、該当児童だけでなく学級全体として学習時に困難な状況が生まれることもある。
- 加配の教員がいなければ、担任だけの指導には限界がある。
- 学校は、基本は集団なので常時個別フォローできるわけではない。
- 実務的には、入学前の9月頃までに保護者が特別支援学級にいれる決断をしないと、学級数に影響する。
- ボーダーの子の親が普通学級か支援学級かを迷うので、学校への報告が遅れる。

○虐待、保護者の病気、など配慮の必要な子ども

- 虐待、育児放棄、保護者がメンタルな病気の場合は、食事や清潔、健康面での支援が必要な場合もある。
- この子どもたちの家庭環境や育ちを丁寧に伝えていくことが大切である。また、必要に応じて関係機関との連携の経過なども伝えておくことで、小学校との連携がよりスムーズに行えるのではないかとと思われる。
- 個人情報の問題もあるが、命に関わることはしっかり伝えておく。

育ちの連続性を大切にしたい

⇒保育困難児の状況を小学校と連携を取り、入学前に保育園での様子を見学し、子どもの日常生活を把握しておく

⇒個別のケースについて懇談、保育要録などで情報交換をして子どもの発達、育ちについて確認する

4 連携を考えたとき、幼稚園と小学校、保育所と小学校でよいのか

- 幼稚園や保育園の状況(教育形態、教育の内容、保育の内容、子どもたちの生活や遊びの流れなど)がお互いに理解されているか
- それぞれで育った子どもたちが小学校へ行くことを考えると、同じ幼児教育なので育ちや学びは歩調を合わせるとよいが、それぞれの独自性もあり難しい
- 小学校は幼稚園、保育所の子どもたちの状況や保育の内容が理解されているのか

○幼稚園と保育園の交流例(名古屋市内)

名東区 梅森坂幼稚園と梅森坂保育園の取り組み

状 況	近くの前山小学校はこの二つの園からの入学が多い。
動 機	<ul style="list-style-type: none"> ・きっかけは平成17年に幼稚園が小学校との連携を申し入れた時に、幼保の歩調を合せて欲しいと学校側から言われ取り組みが始まった ・幼稚園児は保育園児が高い竹馬に乗っている姿に驚き、保育園児は幼稚園の目新しい遊具にとっても喜んだ。
目 的	・お互い交流をしよう中で、よい刺激をし合えればいいのではないかと言うことで始める。
21年度 実 績	10月5日 ミニ運動会(リレー、綱引き、体操) 1月14日 共同製作(ビー玉ころがしの製作)鬼ごっこ 2月17日 小学校の授業参観、ドッジボール
評 価	<ul style="list-style-type: none"> ・同行する保育士は、保育所と違う幼稚園の環境や子どもたちの遊びの様子などを見ることができ勉強になっている。 ・職員にも子どもにも刺激になるので、お互いの負担にならない程度に継続していきたい。 ・子どもたちは同じ地域に住んでいても保護者の就労などで保育時間が長く、なかなか地域の子もどうしがふれあう機会がない。 ・同じ地域の子が遊ぶ機会を意識的につくることも大切であると感じる。

- こうした幼稚園と保育園の取り組みを増やしていくことが大切である。それと併行して、小学校との交流をしていけることが望ましい。
- 名古屋市では、一年生または、高学年との交流.授業参.作品展.発表会の見学.イベント参加など、小学校とのかかわりが増えつつあるが、小学校の敷居はまだ高く感じる。
- 交流は子どもだけでなくお互いの状況を知るために、幼.保.小共に教員、職員の交流ができると良い。授業や保育の体験、研修会など工夫が必要。

5 情報の共有

○保育所児童保育要録

- 養護 子どもの育ちとこれまでどう関わってきたか
健康状態、家庭や地域の状況などの生活面
- 教育 5領域を中心に環境を通して育ってきたこと
- 子どもの全般について相互理解をするために、情報の共有をすることが大切
- 個人情報の保護
- 情報公開のことも考慮し、記載内容には注意する。更に必要なことは口頭で伝える

6 幼稚園・保育園の工夫 小学校の工夫

- 小学校の生活はそれまでの「よく遊べ」から「よく学べ」になり、子どもたちの内面には混乱が生じる。
- 子どもたちは、信頼関係のまだできていない教員や見知らぬ子どもたちとの関係の中で、期待と不安の中で、戸惑いながらチャイムによって区切られた生活をするようになる。
- 食事や排泄の自立、物の管理や身支度などができていないと途端に困ってしまうことになる。

○幼児教育の中で特に身につけておきたい事

- 生きるために必要な基本的生活習慣の自立をしっかりと身につけさせること
- 自分の思いが人に伝えられる(表現できる)こと
- 社会的規範やルールが分かり、守れるようになること
- 人と関わる力を育てる

こうしたことを無理なく身につけられるような環境や遊びの工夫が必要。

一年生の子どもの思い

先生が遊んでくれない
友達がいない
勉強が分からない

⇒保育園や学校で小学校の先生の話の聞いたり、一緒に遊ぶことで不安感をなくす。

⇒小学校に入学してからの4月から5月は1年生の担任が、授業以外の放課や課外授業の場で一緒に遊び早く信頼関係が築けるようにする。



●一年生の第一歩としては、子どもが、「学校は楽しい。」「学校に行きたい。」と思える様にしたい。

●幼稚園、保育園と小学校がよりよい連携ができるようお互いの垣根をまず取り払い共通理解を積極的に進めていくことが肝要であると考えます。